

第3章 学校卒業後のキャリアとキャリアガイダンス・ニーズ

1. 本章の目的

第2章において、男性と女性、あるいは年齢階級別にキャリアガイダンス・ニーズをみた場合、それぞれが経験するライフイベントや、その時の個人のキャリア形成の状況が回答に反映されているという結果が得られた。個人が経験するライフイベントには様々なものがあるが、キャリア形成という点からみた場合、個人個人のキャリアが様々に違ってくるのは教育課程である学校を修了してからであろう。そこで、第3章では、特に学校卒業後のキャリアが現在のキャリアガイダンス・ニーズとどのように関連しているかを中心に検討したい。

2. 方法

【とりあげる変数】

①学校卒業後のキャリアに関連する変数

まず、学校卒業直後の状況として、最初の就職に関する設問を取り上げる。最初の就職に関して、Q10「あなたは学校を卒業（中退）する際、どのように就職活動（教員試験・公務員試験の受験などを含む）を行い、就職しましたか」（5項目のうち1つ選択）およびQ11「あなたは学校を卒業（中退）した直後、どのように働きましたか」（4項目のうち1つ選択）への回答を分析する。

さらに、転職経験や過去の職業キャリアについて本人がどのように認識しているかを検討するために、Q13「あなたは、学校卒業後、転職の経験がありますか。ある場合、何回転職しましたか」、Q14「あなたはどのような職業的経験をされてきたとお考えですか」（5項目のうち1つ選択）への回答を用いる。

また、Q12「学校を卒業（中退）してから今までに、経験してきた期間」について「正社員・正職員・自営」、「非正社員・非正職員・その他」、「専業主婦(主夫)」、「無業その他」のそれぞれについて何年何ヶ月というように記入してもらう設問が用意されている。これについてもキャリアガイダンス・ニーズとの関連を検討する。

そして最後に、学校卒業後、最終的に現在はどうのような就業状態であるのかを示す変数として、Q18「あなたの現在の立場はどうのようなものですか」（13項目のうち1つ選択）への回答を取り上げた。

なお、この他、最終学歴に関する質問として、設問Q7「あなたが最後に通った学校について最も近いものはどれですか」、および設問Q8「あなたは上で回答した学校を卒業しましたか、中退しましたか」があるが、これについては、第2章において集計結果を紹介しているので、第3章では特に取り上げなかった。ちなみに、最終学歴をみると、回答者のうち、男性では「大学・大学院卒業(65.65%)」、「高等学校卒業(15.50%)」、「専門学校・各種学校卒業(11.18%)」となり、大学・大学院卒が約7割を占める。女性では、「大学・大学院卒業

(34.71%)」、「短大・高専卒業(23.48%)」、「高等学校卒業(23.39%)」、「専門学校・各種学校卒業(15.29%)」となり、大学・大学院卒は3割程度で男性の約半分となった。また、短大・高専卒業と高等学校卒業がそれぞれ2割を占めた。男女あわせると回答者全体としては、「大学・大学院卒業(49.73%)」の割合が最も高く、「高等学校卒業(19.56%)」、「短大・高専卒業(13.37%)」、「専門学校・各種学校卒業(13.30%)」の順となった。

②キャリアガイダンス・ニーズに関連する変数

まず、現在感じているキャリアガイダンス・ニーズは、Q26「あなたは、これからの職業やキャリアの問題を解決する上で、どのくらい支援やサポートが必要ですか」(5段階評価)により評価できるので、この設問に対する回答を分析する。

また、キャリアガイダンス・ニーズには、現在、職業やキャリアについて何らかの問題意識をもっているかどうかに関連すると考えられるため、Q24「あなたは、現在、職業やキャリアについて、どのくらいの問題を感じていますか」(5段階評価)への回答および、Q25「あなたは、現在、職業やキャリアについて、どのような問題を感じていますか」(19項目に対する多重回答)への回答を取り上げる。

その上で、過去にさかのぼって、学校を卒業してから過去にどのような場面でキャリアガイダンス・ニーズを感じたのかを問う、Q23「あなたは、学校を卒業してからこれまで、過去のどのような時に、職業やキャリアに関する支援やサポートが必要であると感じましたか」(17項目に対する多重回答)への回答を分析の対象とする。

3. 学校卒業後のキャリアに関する検討

(1) 学校から職業への移行の状況とキャリアガイダンス・ニーズ

①学校から職業への移行の状況に関する男女別、年齢階級別クロス集計

Q10「あなたは学校を卒業(中退)する際、どのように就職活動(教員試験、公務員試験の受験などを含む)を行い、就職しましたか」という設問への回答と、Q11「あなたは学校を卒業(中退)した直後、どのように働きましたか」という設問への回答についてクロス集計を行った(図表3-1)。(%)は全体の人数4106名に占める各セルの回答者の割合である。

まず、男女合わせた全体として就職活動についてみると、「就職活動をして第一志望に就職した」という回答は41.65%、次が「就職活動をして第一志望以外の就職先に就職した」という回答が34.32%を占めた。3番目に多かったのが「就職活動をしなかった」で15.98%、4番目が「就職活動をしたが、採用されなかった」という回答で4.90%となった。

学校卒業後の就職について結果をみると、「正社員・正職員」が82.00%で最も多く、次が「非正社員・非正規職員・その他」で13.01%となった。この2つを合わせると95.01%となり、全体の大半を占める。

次に男女別にみると、まず男性では「正社員・正職員」は85.21%、「非正社員・非正規職

員・その他」が10.53%で2つを合わせて全体の95.74%を占める。女性では、「正社員・正職員」は78.98%、「非正社員・非正規職員・その他」が15.34%となり合計で94.28%となる。男性よりも非正規での就職の割合が若干高くなっている。就職活動の結果については、第一志望に就職した者の割合は、男性で41.68%、女性で41.62%とほとんど変わらない。第一志望以外に就職した者は、男性では36.06%、女性では32.67%と若干男性の方が多くなる。「就職活動をしなかった」という回答は男性では15.80%、女性では16.15%でやや女性の方が多いが割合としてはそれほど変わらない。

図表3-1 学校から職業への移行の状況の集計結果

男性	正社員・正職員		非正社員・非正規職員・その他		学校を卒業して からしばらくは働 けなかった		その他		無回答		合計	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
就職活動をして、第一志望に 就職した	819	(41.07)	9	(0.45)	2	(0.10)	0	(0.00)	1	(0.05)	831	(41.68)
就職活動をして、第一志望以 外の就職先に就職した	683	(34.25)	30	(1.50)	4	(0.20)	0	(0.00)	2	(0.10)	719	(36.06)
就職活動をしたが、採用され なかった	15	(0.75)	55	(2.76)	14	(0.70)	3	(0.15)	0	(0.00)	87	(4.36)
就職活動をしなかった	154	(7.72)	105	(5.27)	45	(2.26)	11	(0.55)	0	(0.00)	315	(15.80)
その他(具体的に)	27	(1.35)	11	(0.55)	2	(0.10)	1	(0.05)	0	(0.00)	41	(2.06)
無回答	1	(0.05)	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	1	(0.05)
合計	1699	(85.21)	210	(10.53)	67	(3.36)	15	(0.75)	3	(0.15)	1994	(100.00)

女性	正社員・正職員		非正社員・非正規職員・その他		学校を卒業して からしばらくは働 けなかった		その他		無回答		合計	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
就職活動をして、第一志望に 就職した	846	(40.06)	26	(1.23)	2	(0.09)	1	(0.05)	4	(0.19)	879	(41.62)
就職活動をして、第一志望以 外の就職先に就職した	634	(30.02)	48	(2.27)	4	(0.19)	0	(0.00)	4	(0.19)	690	(32.67)
就職活動をしたが、採用され なかった	24	(1.14)	73	(3.46)	14	(0.66)	3	(0.14)	0	(0.00)	114	(5.40)
就職活動をしなかった	117	(5.54)	157	(7.43)	49	(2.32)	17	(0.80)	1	(0.05)	341	(16.15)
その他(具体的に)	47	(2.23)	20	(0.95)	8	(0.38)	10	(0.47)	3	(0.14)	88	(4.17)
無回答	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)
合計	1668	(78.98)	324	(15.34)	77	(3.65)	31	(1.47)	12	(0.57)	2112	(100.00)

全体	正社員・正職員		非正社員・非正規職員・その他		学校を卒業して からしばらくは働 けなかった		その他		無回答		合計	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
就職活動をして、第一志望に 就職した	1665	(40.55)	35	(0.85)	4	(0.10)	1	(0.02)	5	(0.12)	1710	(41.65)
就職活動をして、第一志望以 外の就職先に就職した	1317	(32.08)	78	(1.90)	8	(0.19)	0	(0.00)	6	(0.15)	1409	(34.32)
就職活動をしたが、採用され なかった	39	(0.95)	128	(3.12)	28	(0.68)	6	(0.15)	0	(0.00)	201	(4.90)
就職活動をしなかった	271	(6.60)	262	(6.38)	94	(2.29)	28	(0.68)	1	(0.02)	656	(15.98)
その他(具体的に)	74	(1.80)	31	(0.75)	10	(0.24)	11	(0.27)	3	(0.07)	129	(3.14)
無回答	1	(0.02)	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	1	(0.02)
合計	3367	(82.00)	534	(13.01)	144	(1.12)	46	(1.12)	15	(0.37)	4106	(100.00)

②キャリアガイダンス・ニーズとの関連

学校卒業後、最初の就職の仕方は、現在のキャリアガイダンス・ニーズに何らかの影響を及ぼすのであろうか。そこで Q10「あなたは学校を卒業(中退)する際、どのように就職活動(教員試験、公務員試験の受験などを含む)を行い、就職しましたか」という設問への回答とキャリアガイダンス・ニーズとの関連を検討した。なお、前節では Q10 と Q11 でグループを集計したが、全体の回答者の 8 割以上が Q11 で「正社員・正職員」として就職していることから、ここでは Q10 の回答結果のみを用いた。

Q10 の回答ごとにグループを分け、Q24「現在、職業やキャリアに問題を感じているかどうか」および、Q26「現在、職業やキャリアについての支援やサポートを必要としているかどうか」への回答との関連を調べた。Q24 と Q26 の 5 段階評定の回答のうち、問題を感じている程度が高いほど、また、必要を感じている程度が高いほど得点が高くなるように 5 点から 1 点の範囲で得点化した。設問ごとに男女別に平均値(mean)と標準偏差(SD)を算出した結果を図表 3-2 に示す。さらに平均値について、「無回答」の該当者を除き、男女別にグラフにしたものが図表 3-3 である。なお、各セルのサンプル数が大きく異なるので、統計的な検定は行っていない。

Q24 への回答を学校卒業後の状況との関連で見ると、男性も女性も「就職活動をして、第一志望に就職した」と回答した者の平均値が低い。その次は「就職活動をしなかった」、「就職活動をして、第一志望以外の就職先に就職した」となっている。最も高かったのは、「就職活動をしたが、採用されなかった」という者であった。

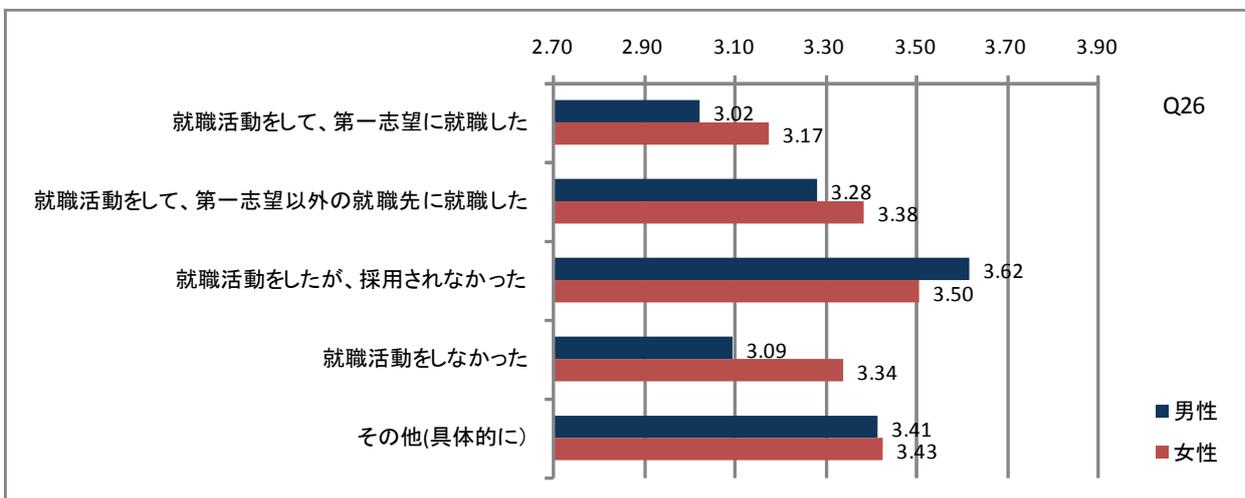
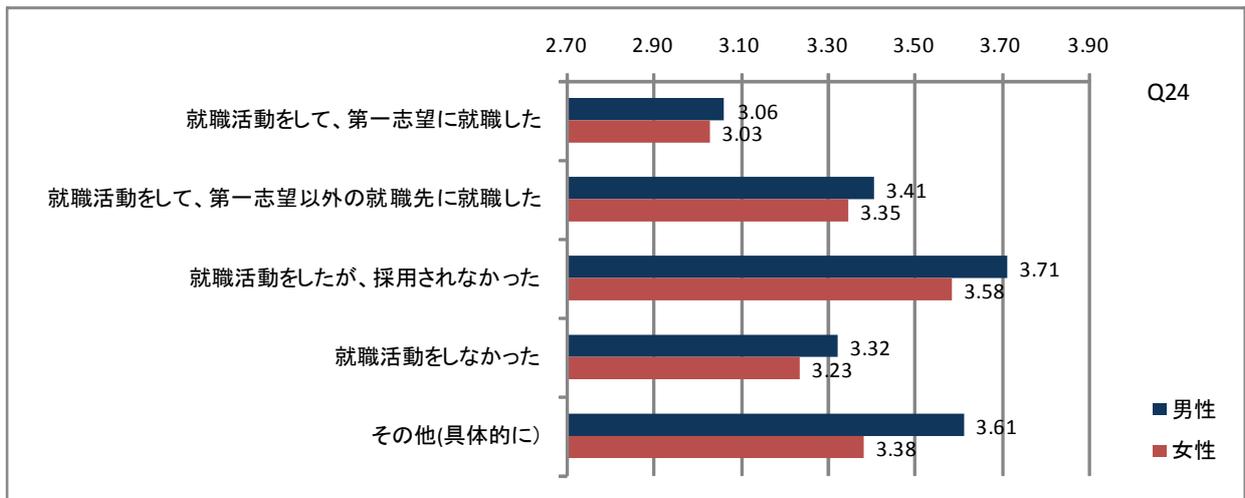
Q26 についても同様で、「就職活動をして、第一志望に就職した」という者の平均値が最も低い。次が「就職活動をしなかった」という者で、その次が「就職活動をして、第一志望以外の就職先に就職した」となり、「就職活動をしたが、採用されなかった」と回答した者の平均値が最も高くなった。学校卒業後、最初の就職の仕方によっても、現在、職業やキャリアに関する問題を感じている程度や現在の職業やキャリアについての支援やサポートの必要性に関して何らかの影響が及ぼされているようだ。

図表 3-2 学校から職業への移行の状況とキャリアガイダンス・ニーズ

Q24	男性			女性			合計		
	n	mean	SD	n	mean	SD	n	mean	SD
就職活動をして、第一志望に就職した	825	3.06	(1.13)	871	3.03	(1.13)	1696	3.04	(1.13)
就職活動をして、第一志望以外の就職先に就職した	715	3.41	(1.07)	685	3.35	(1.06)	1400	3.38	(1.06)
就職活動をしたが、採用されなかった	86	3.71	(1.24)	113	3.58	(1.02)	199	3.64	(1.12)
就職活動をしなかった	314	3.32	(1.18)	338	3.23	(1.15)	652	3.28	(1.16)
その他(具体的に)	41	3.61	(1.09)	87	3.38	(1.17)	128	3.45	(1.15)
無回答	1	4.00	.				1	4.00	.

Q26	男性			女性			合計		
	n	mean	SD	n	mean	SD	n	mean	SD
就職活動をして、第一志望に就職した	825	3.02	(1.03)	871	3.17	(0.99)	1696	3.10	(1.02)
就職活動をして、第一志望以外の就職先に就職した	715	3.28	(1.00)	685	3.38	(0.93)	1400	3.33	(0.97)
就職活動をしたが、採用されなかった	86	3.62	(1.12)	113	3.50	(0.92)	199	3.55	(1.01)
就職活動をしなかった	314	3.09	(1.02)	338	3.34	(1.03)	652	3.22	(1.03)
その他(具体的に)	41	3.41	(1.00)	87	3.43	(0.90)	128	3.42	(0.93)
無回答	1	3.00	.				1	3.00	.

図表3-3 学校から職業への移行の状況と男女別平均値の比較



(2) 転職の状況とキャリアガイダンス・ニーズ

① 転職の状況についての男女別、年齢階級別クロス集計

現在の状況に続いて、過去の転職の経験について検討した。Q13「あなたは学校卒業後、転職の経験がありますか。ある場合、何回転職しましたか。『ある』と答えた方はその転職回数をご記入下さい」という設問に対する回答を男女別、年齢階級別に集計した結果を図表3-4に示す。(%)の数字は、各年齢階級の合計人数に占める「転職あり」、「転職なし」の回答者の割合である。

男女別にみた場合、年齢階級を込みにすると男性は「転職あり」が54.11%、女性は68.51%で、女性において「転職あり」の者が多い。年齢階級別にみると、男性では30歳代前半での「転職あり」は50%を下回るが、「30歳代後半」では54.84%、「40歳代前半」では53.03%となり、「40歳代後半」では59.18%と6割に近くなる。女性は、男性よりも全体に転職経験者の割合がどの年齢階級でも高い。「30歳代前半」で63.06%、「30歳代後半」で69.03%、「40歳代前半」で70.53%、「40歳代後半」で70.27%と、各年齢階級の6割から7割が「転

職あり」としている。

図表3-4 男女別、年齢階級別の転職経験の有無

	男性									
	30歳代前半		30歳代後半		40歳代前半		40歳代後半		合計	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
転職あり	154	(46.39)	368	(54.84)	254	(53.03)	303	(59.18)	1079	(54.11)
転職なし	178	(53.61)	303	(45.16)	225	(46.97)	209	(40.82)	915	(45.89)
合計	332	(100.00)	671	(100.00)	479	(100.00)	512	(100.00)	1994	(100.00)

	女性									
	30歳代前半		30歳代後半		40歳代前半		40歳代後半		合計	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
転職あり	268	(63.06)	439	(69.03)	402	(70.53)	338	(70.27)	1447	(68.51)
転職なし	157	(36.94)	197	(30.97)	168	(29.47)	143	(29.73)	665	(31.49)
合計	425	(100.00)	636	(100.00)	570	(100.00)	481	(100.00)	2112	(100.00)

さらに、「転職あり」と回答した者のうち、具体的に回数を記入した 2519 名を男女別に分け、記入されていた転職の回数で集計した結果を図表 3-5 に示す。(%) の数字は、2519 名のうち各セルの人数の占める割合である。転職回数を記入した者のうち、57.21% が女性で男性は 42.79% となり、女性の方が男性よりも若干多くなっている。

回数でみると、男女ともに「1回」という者の割合が一番多い。男女あわせると全体の 32.63% を占める。男女別でみると、男性が 16.71%、女性が 15.92% となり、男性の方がわずかに多くなっている。「2回」以降は割合が少しずつ減少するが、男女で比較すると男性に比べて女性の割合の方が全体として高くなっている。男性に比べて女性の方が転職経験を持つ者の割合が多く、また、回数も多いことが示されている。

図表3-5 男女別の転職回数

転職回数 (%)	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回以上	合計
男性	421 (16.71)	262 (10.40)	188 (7.46)	80 (3.18)	66 (2.62)	23 (0.91)	15 (0.60)	11 (0.44)	2 (0.08)	9 (0.36)	1 (0.04)	1,078 (42.79)
女性	401 (15.92)	335 (13.30)	272 (10.80)	143 (5.68)	129 (5.12)	63 (2.50)	35 (1.39)	21 (0.83)	9 (0.36)	11 (0.44)	22 (0.87)	1,441 (57.21)
合計	822 (32.63)	597 (23.70)	460 (18.26)	223 (8.85)	195 (7.74)	86 (3.41)	50 (1.98)	32 (1.27)	11 (0.44)	20 (0.79)	23 (0.91)	2,519 (100.00)

②キャリアガイダンス・ニーズとの関連

前節と同様に、過去の転職の状況との関連をみるキャリアガイダンス・ニーズに関する変数としては、Q24「現在、職業やキャリアに問題を感じているかどうか」および Q26「現在、職業やキャリアについての支援やサポートを必要としているかどうか」の設問への回答を用

いた。どちらも5段階評定であるため、問題を感じている程度が高いほど、また、必要を感じている程度が高いほど得点が高くなるように5点から1点の範囲で得点化した。

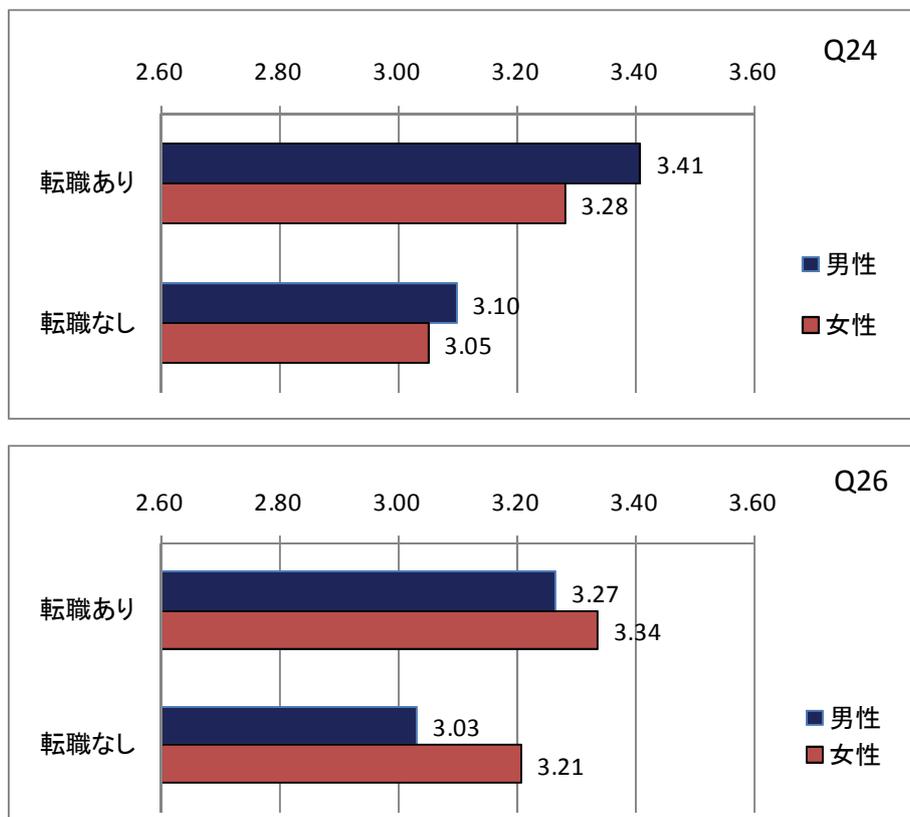
Q13 に対する回答により男女別に「転職あり」と「転職なし」のグループに分け、Q24 と Q26 の回答の平均値と標準偏差を算出した結果を図表3-6に示す。また、平均値に関してグラフにしたものを図表3-7に示す。

図表3-6 転職経験の有無とキャリアガイダンス・ニーズに関する平均値(mean)と標準偏差(SD)

性別	Q24			t値	Q26			t値
	n	mean	SD	Q24	n	mean	SD	Q26
男性	1071	3.41	(1.14)	6.11**	1071	3.27	(1.06)	5.06**
	911	3.10	(1.11)		911	3.03	(0.99)	
女性	1434	3.28	(1.12)	4.39**	1434	3.34	(0.96)	2.82**
	660	3.05	(1.11)		660	3.21	(1.01)	

※ **…p<.01

図表3-7 男女別にみた転職経験の有無とキャリアガイダンス・ニーズ



男性に関して、Q24 の問題を感じている程度の平均値を「転職あり」と「転職なし」で比べてみると、「転職あり」の方が高い。また、女性でも同じ結果となった。そこで、平均値の差の検定を行ったところ、男性では $t=6.11$ 、女性では $t=4.39$ となり、どちらも 1%水準で有意となった。また、Q26 の支援やサポートの必要性に関する平均値を「転職あり」と「転職なし」で比較すると男女とも「転職あり」の方が「転職なし」より高い。こちらについても平均値の差の検定を行ったところ、男性で $t=5.06$ 、女性で $t=2.82$ となり、どちらも 1%水準で有意となった。このように、男女ともに、転職の経験がある者の方がいない者よりも Q24 および Q26 のどちらに関しても得点が高くなることが確認された。

転職経験がある者の方がいない者に比べて、現在、職業やキャリアについて問題を感じている程度が高いし、また、支援やサポートのニーズが高いことがわかったが、過去の転職の回数は影響するだろうか。そこで、転職の回数によってグループを分け、Q24 と Q26 についての平均値 (mean) と標準偏差 (SD) を算出した (図表 3-8)。また、平均値をグラフにしたものを図表 3-9 に示す。

図表3-8 転職の回数とキャリアガイダンス・ニーズ

男性	Q24			Q26		
	n	mean	SD	n	mean	SD
1回	417	3.22	(1.13)	417	3.03	(1.07)
2回	260	3.49	(1.12)	260	3.38	(1.00)
3回	187	3.61	(1.05)	187	3.37	(1.00)
4回	79	3.59	(1.14)	79	3.51	(1.05)
5回	66	3.44	(1.23)	66	3.45	(1.10)
6回以上	61	3.46	(1.25)	61	3.54	(1.12)

女性	Q24			Q26		
	n	mean	SD	n	mean	SD
1回	394	3.13	(1.13)	394	3.23	(1.00)
2回	330	3.18	(1.09)	330	3.32	(0.94)
3回	272	3.33	(1.05)	272	3.38	(0.91)
4回	143	3.43	(1.14)	143	3.34	(0.94)
5回	129	3.45	(1.09)	129	3.43	(0.96)
6回以上	160	3.53	(1.20)	160	3.48	(0.94)

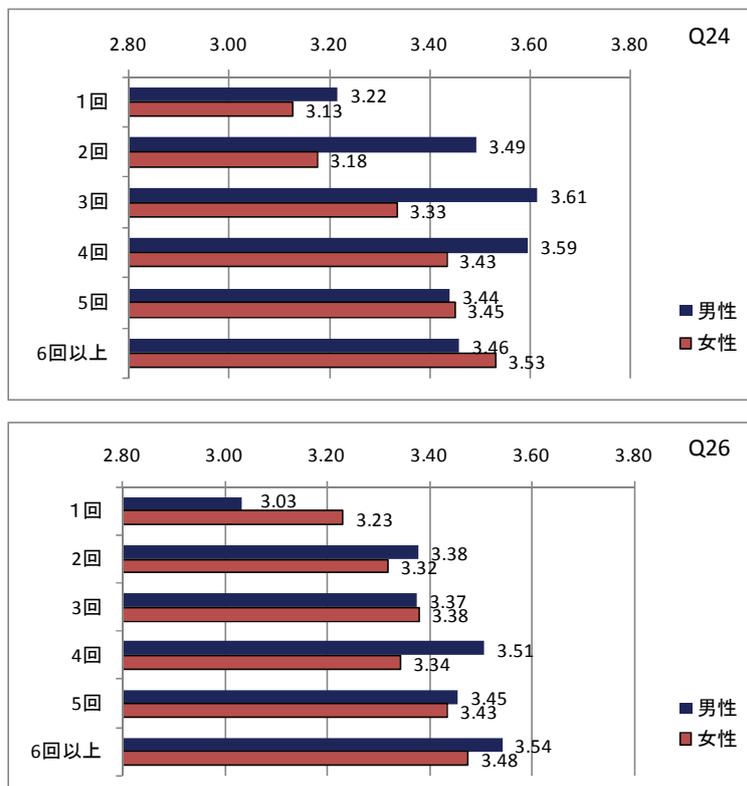
男性では、Q24 をみると、転職回数が 1 回の時は平均値が 3.22 であるが、それよりも回数が多くなると平均値は高くなっている。3 回が最も高く ($m=3.61$)、4 回は 3 回とそれほど違わないが、5 回、6 回以上となるとややそれよりも低くなる。Q26 については、1 回が最も低く ($m=3.03$)、2 回、3 回はそれよりも高くなり、4 回でさらに高くなる ($m=3.51$)。5 回ではやや低くなるが、6 回で最も高くなる ($m=3.54$)。

女性では、Q24 をみると、1 回目是最も低いですが 2 回目もそれほど変わらない。ただ、3 回目以降、回数が増えるとともに平均値は高くなる。Q26 については、1 回が最も低いですが、2 回～4 回はそれほど変わらず、5 回、6 回と徐々に高くなる。

転職の回数は男性では 1 回のみ転職を経験した者より、2 回以上の経験がある者で、現在

の問題意識や支援に対するニーズは高くなっている傾向がある。他方、女性は男性に比べて転職回数が全体に多いので、特に現在の問題意識に関しては、1回と2回の違いはあまり見られず、それ以上になると平均値が高くなる傾向があった。

図表3-9 男女別にみた転職回数とキャリアガイダンス・ニーズ



(3) 職業的経験のとらえ方とキャリアガイダンス・ニーズ

① 職業的経験のとらえ方に関する男女別、年齢階級別クロス集計

Q14「あなたはどのような職業的な経験をされてきたとお考えですか」という設問への回答を男女別、年齢階級別に集計した結果を図表3-10に示す。(%)の数字は、各年齢階級の合計人数に対する各選択肢の選択者の割合を示す。

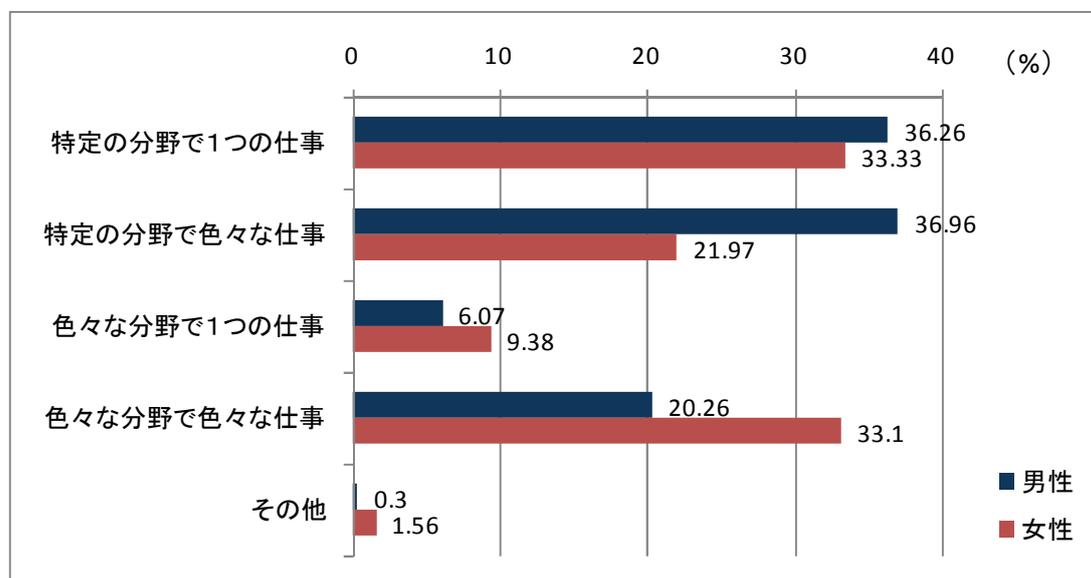
男女ともに各選択肢の選択傾向は、年齢階級によってそれほど大きく変わらないようだ。むしろ男女間での選択傾向の違いが見られるため、男性の合計、女性の合計の割合をグラフとして比較した(図表3-11)。男性では、「特定の分野で1つの仕事」と「特定の分野で色々な仕事」の2つの割合が各4割弱でほぼ同じくらいとなり、続いて「色々な分野で色々な仕事」の選択率が約2割となっている。それに対して、女性の場合は、「特定の分野で1つの仕事」とともに「色々な分野で色々な仕事」が3割程度で同じくらい高い。それに続いて「特定の分野で色々な仕事」が約2割となっている。

図表3-10 男女別、年齢階級別にみた職業的な経験の集計結果

	男性									
	30歳代前半		30歳代後半		40歳代前半		40歳代後半		合計	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
1 特定の分野で1つの仕事	124	(37.35)	234	(34.87)	167	(34.86)	198	(38.67)	723	(36.26)
2 特定の分野で色々な仕事	115	(34.64)	253	(37.70)	189	(39.46)	180	(35.16)	737	(36.96)
3 色々な分野で1つの仕事	21	(6.33)	47	(7.00)	26	(5.43)	27	(5.27)	121	(6.07)
4 色々な分野で色々な仕事	71	(21.39)	131	(19.52)	95	(19.83)	107	(20.90)	404	(20.26)
5 その他	1	(0.30)	5	(0.75)	0	(0.00)	0	(0.00)	6	(0.30)
6 無回答	0	(0.00)	1	(0.15)	2	(0.42)	0	(0.00)	3	(0.15)
合計	332	(100.00)	671	(100.00)	479	(100.00)	512	(100.00)	1,994	(100.00)

	女性									
	30歳代前半		30歳代後半		40歳代前半		40歳代後半		合計	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
1 特定の分野で1つの仕事	140	(32.94)	204	(32.08)	199	(34.91)	161	(33.47)	704	(33.33)
2 特定の分野で色々な仕事	105	(24.71)	151	(23.74)	127	(22.28)	81	(16.84)	464	(21.97)
3 色々な分野で1つの仕事	32	(7.53)	66	(10.38)	54	(9.47)	46	(9.56)	198	(9.38)
4 色々な分野で色々な仕事	137	(32.24)	201	(31.60)	175	(30.70)	186	(38.67)	699	(33.10)
5 その他	9	(2.12)	8	(1.26)	11	(1.93)	5	(1.04)	33	(1.56)
6 無回答	2	(0.47)	6	(0.94)	4	(0.70)	2	(0.42)	14	(0.66)
合計	425	(100.00)	636	(100.00)	570	(100.00)	481	(100.00)	2,112	(100.00)

図表3-11 職業的な経験の男女間比較



②キャリアガイダンス・ニーズとの関連

前述の通り、男性は「特定の分野での職業的な経験をしてきた」と回答する者が多いのに対して、女性では「色々な分野で色々な仕事をしてきた」という回答も多い傾向があることがわかった。職業的な経験についての回答を過去のキャリアに関する1つの分類指標としてみなすならば、これは、現在のキャリアガイダンス・ニーズと何か関連するだろうか。

そこで、この変数についても Q24「現在、職業やキャリアに問題を感じているかどうか」および、Q26「現在、職業やキャリアについての支援やサポートを必要としているかどうか」との関連を検討した。5段階評定の回答のうち、問題を感じている程度が高いほど、また、必要を感じている程度が高いほど得点が高くなるように5点から1点の範囲で得点化した。

Q14に対する回答により男女別に6つのグループに分け、Q24とQ26の回答の平均値(mean)と標準偏差(SD)を算出した結果を図表3-12に示す。また、平均値に関して男女で比較するためのグラフにしたものが図表3-13および図表3-14である。

**図表3-12 職業的経験のとらえ方とキャリアガイダンス・ニーズに関する
平均値(mean)と標準偏差(SD)**

	男性						女性					
	Q24			Q26			Q24			Q26		
	n	mean	SD									
1 特定の分野で1つの仕事	716	3.11	(1.17)	716	3.04	(1.06)	701	3.04	(1.12)	701	3.20	(1.00)
2 特定の分野で色々な仕事	734	3.30	(1.07)	734	3.18	(0.97)	455	3.25	(1.06)	455	3.32	(0.91)
3 色々な分野で1つの仕事	120	3.40	(1.08)	120	3.25	(1.12)	197	3.22	(1.15)	197	3.32	(0.96)
4 色々な分野で色々な仕事	403	3.43	(1.17)	403	3.30	(1.04)	696	3.34	(1.12)	696	3.36	(0.98)
5 その他	6	4.33	(1.21)	6	3.50	(1.22)	33	3.33	(1.36)	33	3.36	(1.25)
6 無回答	3	2.67	(1.15)	3	2.33	(1.53)	12	3.33	(1.07)	12	3.58	(1.16)

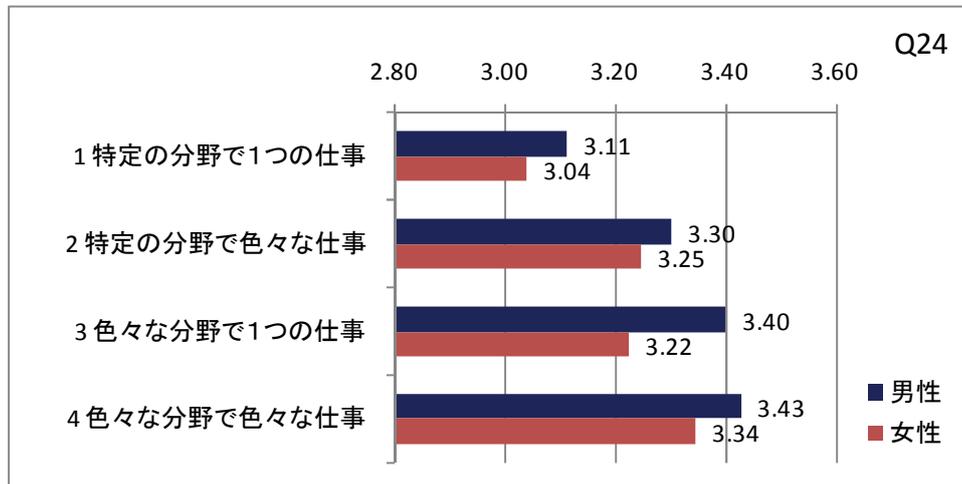
図表3-13では、「現在、職業やキャリアに問題を感じているかどうか」という問いに対する回答であるが、男女ともに最も平均値が低かったのは「特定の分野で1つの仕事」という回答を選択した者のグループであった。男性では、2番目に低かったのは、「特定の分野で色々な仕事」という回答を選んだグループで、その次が、「色々な分野で1つの仕事」、「色々な分野で色々な仕事」という順になった。他方、女性では、低い方から2番目は、「色々な分野で1つの仕事」となり、「特定の分野でいろいろな仕事」、「色々な分野で色々な仕事」という順になっている。一番低いグループと一番高いグループは男女で同じで、最も問題を感じていないのは、「特定の分野で1つの仕事」という回答を選んだ者で、最も問題を感じているのが「色々な分野で色々な仕事」を選んでいる者となった。

次に、図表3-14では、「現在、職業やキャリアについての支援やサポートを必要としているかどうか」という問いに対する回答であるが、男性も女性もQ24に対する回答と結果は同じであった。すなわち、「特定の分野で1つの仕事」という回答を選んだ者が最も平均値が低く、「色々な分野で色々な仕事」を選んでいる者の平均値が最も高くなった。そして、男性では、低い方から順に2位が「特定の分野でいろいろな仕事」、3位が「色々な分野で1つの仕事」であるが、女性では、低い方から2位が「色々な分野で1つの仕事」となり、3位は「特定の分野で色々な仕事」という結果となった。

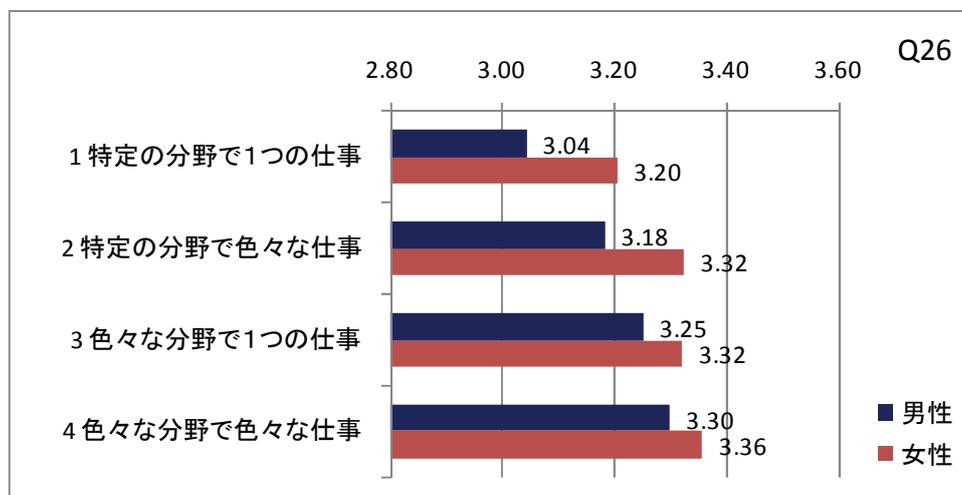
なお、Q24とQ26の回答をみると、Q24では、全般に、男性の平均値は女性よりも高く、問題を感じている程度はどのグループでも多くなっている。それに対して、Q26の支援やサ

ポートの必要性に関しては、男性に比べて、女性の平均値の方が高くなっている。

図表3-13 過去の職業経験別に見た、「Q24:現在、問題を感じている程度」の平均値の男女比較



図表3-14 過去の職業経験別に見た、「Q26:現在のサポートの必要性」の平均値の男女比較



(4) 現在の状況とキャリアガイダンス・ニーズ

①現在の状況についての男女別、年齢階級別クロス集計

ここまで学校卒業後の働き方についての集計結果をみてきたが、男性と女性、あるいは年齢階級によって過去の職業的経験の内容が異なり、それにもなってキャリアガイダンス・ニーズも異なることが示された。そこで、回答者が学校卒業後、たどり着いた現在の状況についても男女別、年齢階級別に集計し、検討した。Q18「あなたの現在の立場はどのようなものですか」という質問への回答について、男女別、年齢階級別にクロス集計を行った結果を

図表3-15に示す。(%)の数字は各年齢階級の全体数に占める該当項目の割合である。

年齢階級をこみにした場合、男性では、「正社員・正職員」が80.44%と最も多い。次が「自営業・自由業」で9.13%となる。この2つで全体の約9割を占める。

女性では、最も多かったのは「正社員・正職員」で32.34%、2番目が「専業主婦で今は仕事を探していない」で23.86%、3番目が「パートまたはアルバイト」で15.01%、4番目が「専業主婦で今は仕事を探している」で9.38%となった。1番から4番を合計すると80.59%となる。男性で2位となった「自営業・自由業」は女性では5.68%となり、それほど多くなかった。なお、非正規の仕事として、「パートまたはアルバイト」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」の3つをあわせると、女性では21.83%となり、男性の6.27%と比べて非正規の仕事に就いている者が多いことがわかる。

男性に比べて、女性は「正社員・正職員」の割合が低く、非正規の仕事に就いている者が2割程度と多く、また、「専業主婦で仕事を探していない」という者が2割以上含まれており、男性よりも現在の状況にばらつきがある。

図表3-15 現在の状況に関する集計結果(男女別、年齢階級別集計)

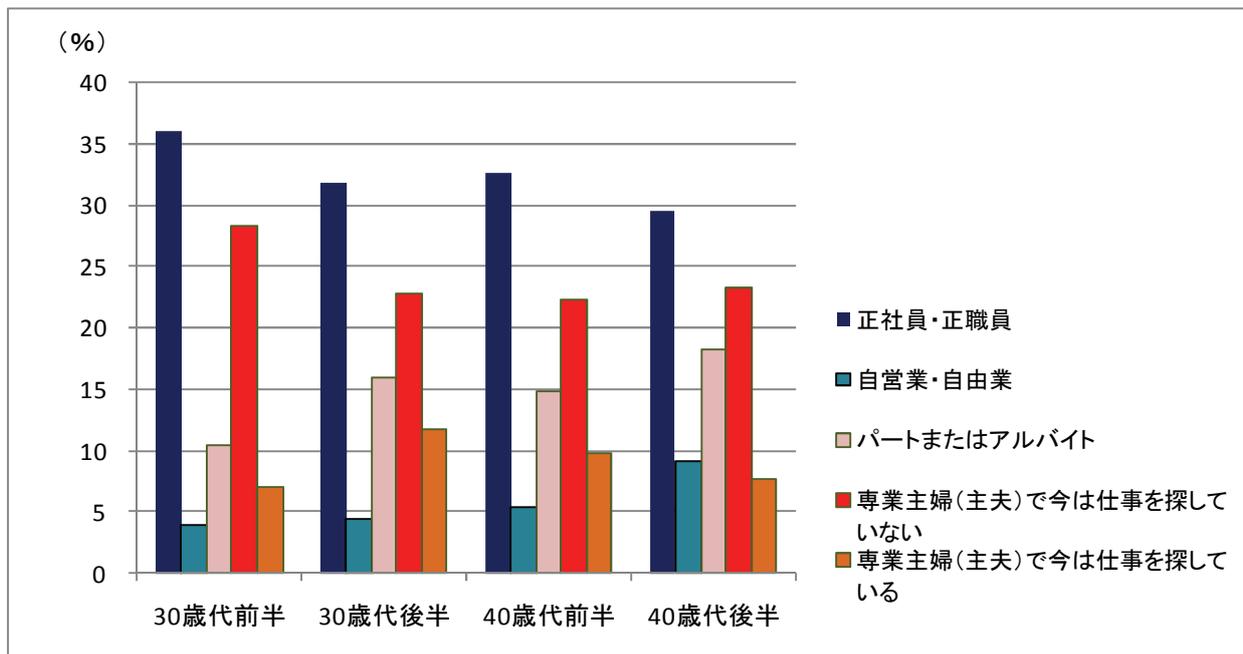
		男性									
		30歳代前半		30歳代後半		40歳代前半		40歳代後半		合計	
		人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
1	正社員・正職員	274	(82.53)	565	(84.20)	387	(80.79)	378	(73.83)	1,604	(80.44)
2	自営業・自由業	9	(2.71)	47	(7.00)	46	(9.60)	80	(15.63)	182	(9.13)
3	契約社員・嘱託	9	(2.71)	19	(2.83)	13	(2.71)	16	(3.13)	57	(2.86)
4	派遣社員	2	(0.60)	5	(0.75)	6	(1.25)	10	(1.95)	23	(1.15)
5	パートまたはアルバイト	18	(5.42)	12	(1.79)	7	(1.46)	8	(1.56)	45	(2.26)
6	家族従業員	2	(1.31)	4	(0.60)	2	(0.42)	2	(0.39)	10	(0.50)
7	専業主婦(主夫)で今は仕事を探していない	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	1	(0.20)	1	(0.05)
8	専業主婦(主夫)で今は仕事を探している	0	(0.00)	0	(0.00)	1	(0.21)	0	(0.00)	1	(0.05)
9	大学院や専門学校などの教育機関に在学中	2	(0.60)	2	(0.30)	3	(0.63)	0	(0.00)	7	(0.35)
10	無職で進学や留学などの準備	1	(0.30)	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)	1	(0.05)
11	無職で仕事を探している	10	(3.01)	7	(1.04)	5	(1.04)	12	(2.34)	34	(1.71)
12	無職で何もしていない	3	(2.50)	6	(0.89)	7	(1.46)	2	(0.39)	18	(0.90)
13	その他(自由記述)	2	(0.60)	4	(0.60)	2	(0.42)	3	(0.59)	11	(0.55)
	合計	332	(100.00)	671	(100.00)	479	(100.00)	512	(100.00)	1,994	(100.00)

		女性									
		30歳代前半		30歳代後半		40歳代前半		40歳代後半		合計	
		人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
1	正社員・正職員	153	(36.00)	202	(31.76)	186	(32.63)	142	(29.52)	683	(32.34)
2	自営業・自由業	17	(4.00)	28	(4.40)	31	(5.44)	44	(9.15)	120	(5.68)
3	契約社員・嘱託	15	(3.53)	27	(4.25)	23	(4.04)	12	(2.49)	77	(3.65)
4	派遣社員	20	(4.71)	17	(2.67)	20	(3.51)	10	(2.08)	67	(3.17)
5	パートまたはアルバイト	44	(10.35)	101	(15.88)	84	(14.74)	88	(18.30)	317	(15.01)
6	家族従業員	1	(0.24)	6	(0.94)	12	(2.11)	9	(1.87)	28	(1.33)
7	専業主婦(主夫)で今は仕事を探していない	120	(28.24)	145	(22.80)	127	(22.28)	112	(23.28)	504	(23.86)
8	専業主婦(主夫)で今は仕事を探している	30	(7.06)	75	(11.79)	56	(9.82)	37	(7.69)	198	(9.38)
9	大学院や専門学校などの教育機関に在学中	2	(0.47)	0	(0.00)	1	(0.18)	0	(0.00)	3	(0.14)
10	無職で進学や留学などの準備	0	(0.00)	1	(0.16)	1	(0.18)	0	(0.00)	2	(0.09)
11	無職で仕事を探している	8	(1.88)	18	(2.83)	8	(1.40)	15	(3.12)	49	(2.32)
12	無職で何もしていない	6	(1.41)	9	(1.42)	13	(2.28)	5	(1.04)	33	(1.56)
13	その他(自由記述)	9	(2.12)	7	(1.10)	8	(1.40)	7	(1.46)	31	(1.47)
	合計	425	(100.00)	636	(100.00)	570	(100.00)	481	(100.00)	2,112	(100.00)

年齢階級別にみると、男性は、30歳代前半では、「正社員・正職員」が最も多く、次が「パートまたはアルバイト」である。30歳代後半では、「正社員・正職員」、「自営業・自由業」、「契約社員・嘱託」の順となる。40歳代前半では、30歳代後半と同じ傾向だが、「正社員・正職員」の割合が減り、「自営業・自由業」の割合が多くなっている。40歳代後半では、「正社員・正職員」が最も多く、「自由業・自営業」がその次という傾向は同じだが、40歳代前半と比べて、「正社員・正職員」の割合は減り、「自営業・自由業」の割合が多くなる。また、「契約社員・嘱託」や「派遣社員」の割合もわずかではあるが多くなっている。

女性では、30歳代前半では、多い順に「正社員・正職員」、「専業主婦で今は仕事を探していない」、「パートまたはアルバイト」、「専業主婦で今は仕事を探している」となっている。30歳代後半、40歳代後半もこの順位は変わらない。ただし、これらの割合は、年齢階級毎に違っている。そこで、どの年齢階級でも割合の高い「正社員・正職員」、「専業主婦で今は仕事を探していない」、「パートまたはアルバイト」、「専業主婦で今は仕事を探している」、「自営業・自由業」のみの割合をとりだして、年齢階級別にグラフにしたものが図表3-16である。

図表3-16 女性における年齢階級別にみた現在の状況に関する上位項目の選択率(%)



グラフをみると、女性の場合、30歳代前半は、「正社員・正職員」と「専業主婦で今は仕事を探していない」が多く、正社員か専業主婦に専念しているという状況におおむね分かれている。しかし、30歳代後半では、「正社員・正職員」も「専業主婦で今は仕事を探していない」という者もどちらも少なくなり、代わりに「専業主婦で今は仕事を探している」という者と「パートまたはアルバイト」が増えた状態になっている。40歳代前半もほぼ同じよう

な状況である。40歳代後半では、「正社員・正職員」の割合は最も少なくなり、「専業主婦で仕事を探していない」という人もやや増加傾向となる。また、他の年齢階級に比べて多くなっているのが「パートまたはアルバイト」と「自営業・自由業」である。

②キャリアガイダンス・ニーズとの関連

回答者の現在の状況との関連をみる変数としては、Q24「現在、職業やキャリアに問題を感じているかどうか」およびQ26「現在、職業やキャリアについての支援やサポートを必要としているかどうか」の設問への回答を用いた。Q24もQ26も5段階評定となっているので、Q24については、「かなり問題を感じている」～「まったく問題を感じていない」の順に、Q26については、「かなり必要である」～「まったく必要でない」の順に各5点から1点として得点化した。この得点化では「どちらともいえない」という回答は3点で、問題を感じているほど、あるいは必要としているほど得点は高くなる。

回答者の現在の状況毎に、各設問についての平均値(mean)と標準偏差(SD)を男女別に算出した結果を図表3-17に示す。

男性では、現在の状況としては「正社員・正職員」が多く1594名、次が「自営業・自由業」の180名で、それ以外は、2桁の回答者か1桁の回答者のみとなり、現在の状況に関して回答者数のばらつきが大きい。そのため、平均値の差を統計的に検定することはできないが、回答者数が2桁以上の項目の平均値の大きさをみてみると、Q24でもQ26でも平均値が最も大きいのは、「無職で仕事を探している」という状況にある者であった。また、「無職で何もしていない」という状況の者の平均値も4以上で高くなっている。また、「正社員・正職員」や「自営業・自由業」、「家族従業員」に比べて「契約社員・嘱託」、「派遣社員」、「パートまたはアルバイト」という非正規の仕事に就いている人の平均値がQ24でもQ26でも高くなっている。男性では無職の状態にある者や非正規の就業をしている者の方が、正規就業をしている者に比べて、現在、職業やキャリアについての問題点を感じている程度が大きく、また支援やサポートを必要と感じている程度が大きいことがわかる。

次に、女性に関して、現在の状況とQ24およびQ26の平均値の大きさを検討した。回答者数が2桁以上の項目をみると、Q24でもQ26でも最も平均値が高いのは男性と同じく「無職で仕事を探している」という回答をした者であった。「無職で何もしていない」という者の平均値はそれほど高くはなかった。また、Q24とQ26の両方で平均値が一番低かったのは、「家族従業員」であった。さらに、Q24では「専業主婦で今は仕事を探していない」という者が低い方から2番目で、その後に、「自営業・自由業」、「パートまたはアルバイト」、「正社員・正職員」となる。「専業主婦で今は仕事を探している」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」の平均値は相対的に高めとなった。Q26では、「家族従業員」、「自営業・自由業」、「パートまたはアルバイト」、「無職で何もしていない」、「正社員・正職員」、「専業主婦で今は仕事を探していない」は低めだった。反対に、最も高かったのは「無職で仕事を探している」で、「専業主婦で仕事を探している」、「派遣社員」、「契約社員・嘱託」の順となった。Q24とQ26の回答

をみると、女性の場合は、「家族従業員」、「自由業・自営業」、「パートまたはアルバイト」、「正社員・正職員」は両方とも低め、「無職で仕事を探している」、「専業主婦で今は仕事を探している」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」は両方とも高めとなっている。「専業主婦で今は仕事を探していない」では Q24 では低いが Q26 ではやや高め、「無職で何もしていない」は Q24 の方が Q26 よりやや高めとなった。

図表3-17 男女別、現在の状況別にみた Q24 および Q26 の平均値(mean)と標準偏差(SD)

Q18「現在の状況」	男性						女性					
	Q24			Q26			Q24			Q26		
	n	mean	SD									
1 正社員・正職員	1,594	3.19	(1.10)	1,594	3.10	(1.02)	679	3.18	(1.09)	679	3.23	(0.94)
2 自営業・自由業	180	3.07	(1.21)	180	2.98	(1.01)	119	3.00	(1.17)	119	3.01	(0.93)
3 契約社員・嘱託	57	3.91	(1.04)	57	3.46	(0.91)	77	3.44	(1.14)	77	3.45	(0.85)
4 派遣社員	23	4.00	(0.85)	23	3.83	(0.78)	67	3.67	(0.89)	67	3.52	(0.89)
5 パートまたはアルバイト	45	4.20	(1.10)	45	3.87	(1.08)	315	3.10	(1.10)	315	3.18	(0.95)
6 家族従業員	10	3.10	(1.52)	10	3.20	(1.14)	28	2.89	(1.07)	28	2.96	(1.04)
7 専業主婦(主夫)で今は仕事を探していない	1	5.00	.	1	4.00	.	497	2.96	(1.10)	497	3.24	(1.02)
8 専業主婦(主夫)で今は仕事を探している	1	3.00	.	1	4.00	.	194	3.71	(0.92)	194	3.75	(0.74)
9 大学院や専門学校などの教育機関に在学中	7	3.86	(1.07)	7	3.43	(0.98)	3	3.67	(1.15)	3	4.33	(1.15)
10 無職で進学や留学などの準備	1	3.00	.	1	4.00	.	2	5.00	(0.00)	2	5.00	(0.00)
11 無職で仕事を探している	34	4.35	(0.85)	34	4.29	(0.72)	49	4.45	(0.79)	49	4.20	(0.84)
12 無職で何もしていない	18	4.11	(1.08)	18	4.11	(0.90)	33	3.24	(1.23)	33	3.15	(1.30)
13 その他(自由記述)	11	4.00	(0.89)	11	3.73	(1.01)	31	3.23	(1.36)	31	3.10	(1.08)
合計	1,982			1,982			2,094			2,094		

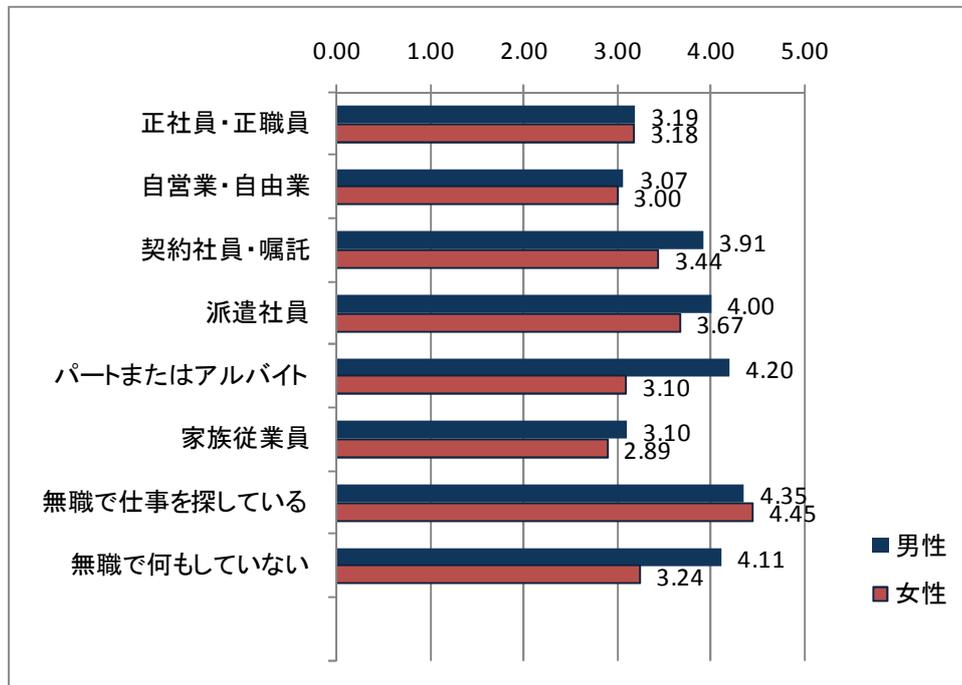
nは各選択肢の回答者数

男女で就業形態による回答の傾向が異なる項目があるようなので、Q24 と Q26 それぞれについて平均値を男女で比較したグラフを図表3-18 および図表3-19 に示す。現在の状況について男女ともに回答者数が2桁以上の項目を比較した。

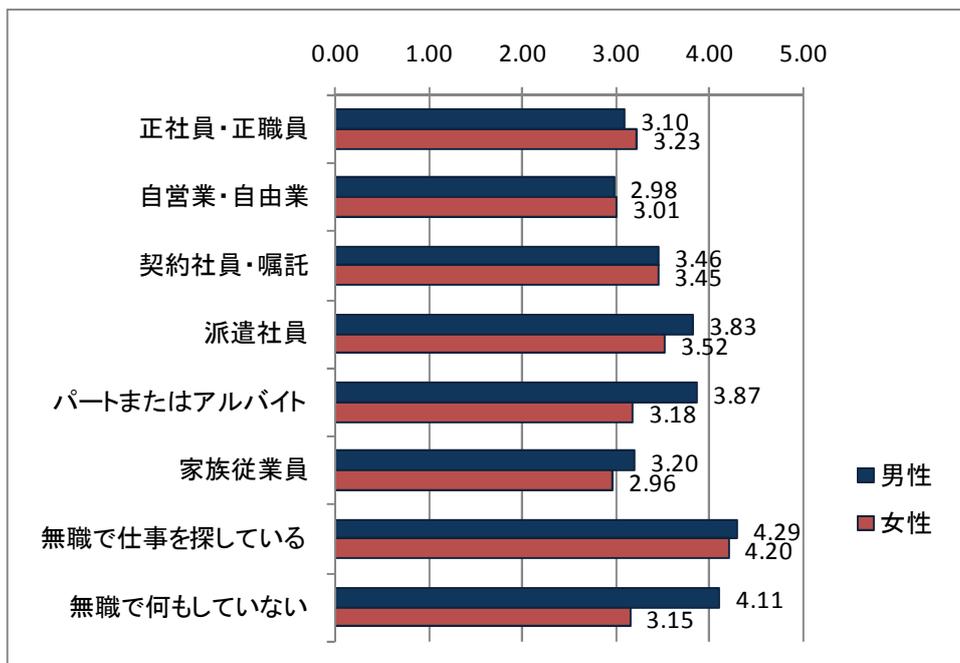
Q24 についてみると、問題を感じている程度は「正社員・正職員」、「自由業・自営業」、「家族従業員」、「無職で仕事を探している」については大きな男女差は見られない。他方、「パートまたはアルバイト」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」、「無職で何もしていない」については男性の方が女性よりも多い。Q26 では、「正社員・正職員」、「自由業・自営業」、「契約社員・嘱託」、「家族従業員」、「無職で仕事を探している」については男女差がほとんどないが、「無職で何もしていない」、「パートまたはアルバイト」、「派遣社員」については男性が女性よりも多くなっている。

以上のことから、現在、「無職で仕事を探している」という人は、男女ともに問題を感じているし、支援やサポートも必要としていることがわかった。さらに、正規の仕事に就いている人に比べて非正規の仕事に就いている場合に、問題を感じている程度が高く、支援のニーズも高いことが示された。ただ、非正規就業でも女性の「パートまたはアルバイト」は、男性に比べて問題を感じている程度も支援のニーズも高くないことが示されている。

図表3-18 現在の状況別にみた「Q24:現在、問題を感じている程度」の
平均値の男女比較



図表3-19 現在の状況別にみた「Q26:現在のサポートの必要性」の平均値の
男女比較



4. 学校卒業後のキャリアとキャリアガイダンス・ニーズとの関連の検討

(1) 検討の方法

前節において、過去の転職の状況、学校卒業後のキャリアのとらえ方、学校卒業直後の職業への移行、現在の状況という変数に関する回答者の回答傾向と、現在の職業やキャリアに関して問題を感じている程度、および、現在の職業やキャリアに関する支援やサポートの必要性との関連について検討してきた。現在の職業やキャリアに対してもっている問題意識と支援やサポートの必要性の高さをキャリアガイダンス・ニーズとして考えてみると、男女や年齢階級により若干違いはあるものの、概して以下のような知見が得られている。

- ①学校卒業後、就職活動をして第一志望に就職したという者は、キャリアガイダンス・ニーズがそれ以外の者に比べて低い。
- ②過去に転職経験がある者はない者に比べて、キャリアガイダンス・ニーズが高い。また、男性の場合、転職を1回経験した者に比べて回数が1回よりも多い者にキャリアガイダンス・ニーズが高い。
- ③これまでに、特定の分野で1つの仕事をしてきたと考えている者は、それ以外の者に比べてキャリアガイダンス・ニーズが低い。特に、いろいろな分野でいろいろな仕事をしてきたという者はキャリアガイダンス・ニーズが高い。なお、男性の場合は、特定の分野で仕事をしてきたと考えている者は、いろいろな分野で仕事をしてきたと考えている者に比べて、キャリアガイダンス・ニーズが低い。
- ④現在、求職中の者、非正規の仕事に従事している者は、正規で就業している者に比べて、キャリアガイダンス・ニーズが高い。

学校卒業後の経験とキャリアガイダンス・ニーズに関する上記のような結果をまとめると、現在、職業やキャリアに対して大きな問題を感じていない者、あるいは職業やキャリアに関する支援やサポートを特に必要としていない者は、学校卒業後に就職活動をして第一志望に就職し、その後、転職をせず、あるいは、したとしても1回の転職のみで特定の分野でのキャリアを積み上げ、今も正規の仕事で就業している者、というイメージができあがる。反対に、現在、キャリアガイダンス・ニーズを持っている者は、上記の条件にあてはまらない者ということになる。

なお、上記の項目については、単独の変数とキャリアガイダンス・ニーズとの関連をみたが、例えば、就職活動をして第一志望に就職できなければ、転職したいという気持ちも起こるので、転職の経験が起こりやすくなるかもしれないし、転職を繰り返すうちにいろいろな分野で仕事を探すことにもなり、また、最終的には非正規の仕事に就くことになるという状況もありうる。このようにキャリアの形成においては、過去の1時点の選択がその後のキャリアにも影響をするので、どの変数の影響が大きいのかを個別の変数の比較からは検討することが難しい。

そこで、様々な過去の経験と性別、年齢階級などの複数の変数が、キャリアガイダンス・

ニーズにそれぞれどの程度の影響を及ぼしているかを重回帰分析により検討することとした。この分析に際しては、性別や年齢階級、用意された選択肢から1つまたは複数の回答を選択させるような名義尺度の形式をとる変数については、1か0のダミー変数に置き換えた。

Q24「現在、職業やキャリアに問題を感じているかどうか」および、Q26「現在、職業やキャリアについての支援やサポートを必要としているかどうか」への回答を前節までと同様に5点～1点の5段階評定で得点化し、被説明変数とした。説明変数には学校卒業後のキャリアに関連して取り上げた各変数を取り上げた。また、回答者の属性に関連する要因のうち、配偶者の有無と子供の有無を説明変数に含めた¹。これらの変数をステップワイズ法により順次変数を投入する方法で分析を行った。結果を図表3-20に示す。

(2) 現在、職業やキャリアに問題を感じているかどうかという評価に影響を与える要因

図表3-20で、Q24の評価に対してどのような変数が影響を及ぼしているかをみた。職業やキャリアに問題を感じる程度が高くなる方向で影響する変数としては、現在の状況のうち、「無職で仕事を探している」、「専業主婦（主夫）で今は仕事を探している」という変数の影響が大きかった。さらに、「派遣社員」、「契約社員・嘱託」という変数の影響も有意であった。また、係数は上記よりも小さくなるが、「男性」、「転職経験がある」場合、年齢階級が「30歳代前半」という場合もQ24の回答にプラスの影響を及ぼしている。

他方、職業やキャリアに対する問題点を感じる程度を低くする方向で影響する変数としては、係数の絶対値が大きい順に、「配偶者あり」、現在の状況のうち「自営業・自由業」、学校から職業への移行の状況のうち「就職活動をして第一志望に就職した」、職業経験のうち「特定の分野で1つの仕事」、学校から職業への移行の状況のうち「就職活動をしなかった」という変数が有意となった。現在の状況のうち「正社員・正職員」は問題を感じる程度を低くする方向で影響するが、統計的には有意な傾向になった。

(3) 現在、職業やキャリアについての支援やサポートを必要としているかどうかという評価に影響を与える要因

支援やサポートについてのニーズを高める方向で影響する変数としては、現在の状況のうち、「無職で仕事を探している」と「専業主婦（主夫）で今は仕事を探している」の値が大きかった。さらに年齢階級として「30歳代前半」および「30歳代後半」、家族の状況として「子供あり」、「転職経験あり」という変数が影響した。現在の状況のうち「派遣社員」もニーズを高める影響をもっているが、統計的には10%の有意な傾向にとどまり、5%水準の有意差

¹ 重回帰分析に先立って、配偶者の有無と子供の有無に関しては、配偶者ありの群となしの群、子供ありの群となしの群でQ24およびQ26の回答についてそれぞれ群間で平均値の差の検定を行ったところ有意差が検出されている（Q24：配偶者の有無 $t=-12.16, p<.01$ 、子供の有無 $t=-8.08, p<.01$ ；Q26：配偶者の有無 $t=-6.33, p<.01$ 、子供の有無 $t=-2.49, p<.05$ ）。配偶者と子供については、それぞれ「あり」の群の方が「なし」の群よりもQ24とQ26の平均値が低い、つまりキャリアガイダンス・ニーズが低いという結果が得られている。

には達しなかった。

他方、ニーズを低める方向で影響する変数としては、現在の状況のうち、「自営業・自由業」、家族の状況として「配偶者あり」、学校から職業への移行のうち「就職活動をして第1志望に就職した」、現在の状況のうち「正社員・正職員」、学校から職業への移行のうち「就職活動をしなかった」、職業経験のうち「特定の分野で1つの仕事」という変数が有意となった。

図表3-20 キャリアガイダンス・ニーズに影響を与える変数の検討(重回帰分析の結果)

		Q24「問題を感じているかどうか」	Q26「支援やサポートが必要かどうか」
性別	男性=1、女性=0	0.195**	
年齢階級(あてはまる項目のみに1、それ以外は0)	30歳代前半	0.090*	0.188**
	30歳代後半		0.103**
	40歳代前半		
	40歳代後半		
配偶者	あり=1、なし=0	-0.387**	-0.248**
子供	あり=1、なし=0		0.100*
学校から職業への移行(あてはまる項目のみに1、それ以外は0)	就職活動をして、第一志望に就職した	-0.274**	-0.195**
	就職活動をして、第一志望以外の就職先に就職した		
	就職活動をしたが、採用されなかった		
	就職活動をしなかった	-0.130**	-0.138**
	その他(具体的に)		
転職	あり=1、なし=0	0.180**	0.143**
職業経験(選択の項目のみに1、それ以外は0)	特定の分野で1つの仕事	-0.154**	-0.086**
	特定の分野でいろいろな仕事		
	いろいろな分野で1つの仕事		
	いろいろな分野でいろいろな仕事		
現在の状況(選択の項目のみに1、それ以外は0)	正社員・正職員	-0.089†	-0.146**
	自営業・自由業	-0.276**	-0.303**
	契約社員・嘱託	0.209*	
	派遣社員	0.317**	0.184†
	パートまたはアルバイト		
	家族従業員		
	専業主婦(主夫)で今は仕事を探していない		
	専業主婦(主夫)で今は仕事を探している	0.683**	0.510**
	大学院や専門学校などの教育機関に在学中		
	無職で仕事を探している	0.882**	0.761**
	無職で何もしていない		

調整済みR2

0.101

0.075

**…p<.01; *…p<.05; †…p<.10

5. まとめ

(1) 男性と女性の職業生活やキャリアについて

今回の調査データでは、男性は「正社員・正職員」と「自営業・自由業」をあわせると約9割が就業者であり、約半数（54.11%）は転職経験があるものの、過去のキャリアを振り返った場合に、「特定の分野で1つの仕事」あるいは「特定の分野でいろいろな仕事」という認識をしている者が約6割いることから、学卒後、継続して特定の仕事をしてきた経験がある者が多数を占めているといえる。また、現在、無職で求職中の者、非正規で働いている者や転職経験がある者のキャリアガイダンス・ニーズが高くなっている。

他方、女性の場合には、男性に比べて、職業生活に関するキャリアは多様である。50歳代の就業者を対象とした以前の調査でも（労働政策研究研修機構, 2010）、女性では職業生活に関して様々なキャリアの転換をしている様子がわかったが、今回の30歳代、40歳代の対象者においても男性に比べて回答者のキャリアは多様であった。女性の場合、学校卒業後は約8割（79%）が「正社員・正職員」として就職しているにもかかわらず、現在の状況をみると、「正社員・正職員」は年代をこみにして約3割（32%）となり、5割程度が働き方を変えている。現在の状況を見ると専業主婦は約24%、非正規で働いている人は22%程度となっているので、正規の仕事を辞めて、専業主婦になったり、パートやアルバイトで働いているという人が多くなっているのが実情のようである。また、転職経験も男性に比べて多く、2回以上の転職経験をもつ者の割合が男性よりも高い。さらに今までに従事してきた仕事についても、男性では「特定の分野」で働いている者が多いのに対して、女性では、「いろいろな分野でいろいろな仕事」という働き方の選択をしている者も少なくない。これは、正社員として継続して働いてきたキャリアをもつ者だけでなく、派遣社員、パートやアルバイトという非正規の働き方でいろいろな仕事をしてきた者も一定の割合でいることから生じた結果なのであろう。

(2) キャリアガイダンス・ニーズについて

最後の重回帰分析による要因分析では、いろいろな変数とキャリアガイダンス・ニーズについての関連を検討したが、個人の属性として、年齢階級に関しては、30歳代前半などの若い世代ほどキャリアガイダンス・ニーズが高かった。また、男女別でみると、図表3-20の重回帰分析では性別は有意にはならなかったが、キャリアガイダンス・ニーズに関する質問への回答傾向をみる限りでは、相談やサポートが必要かどうかにかかわらず肯定的に回答した男性は約38%、女性は約44%で、男性よりも女性のキャリアガイダンス・ニーズが高いように思われた。

若い世代でキャリアガイダンス・ニーズが高いのは、若いほど職業生活が将来的に継続する期間が長いので、転職する可能性も高く、これから将来をどうするかという点について誰かに相談してみたいとか、サポートを受けたいという気持ちがあるからだろう。

男性と女性では、現在、職業やキャリアに関して問題を感じているという割合は男性の方が女性よりも高めとなったが、相談やサポートのニーズは上述の通り、女性の方が高いようである。男性の場合、無職で仕事を探していたり、現在、非正規の仕事に就いていたりする場合には、「問題を感じている」という回答となり、相談やサポートの必要性も高いようだ。ただ、それ以外の場合には、それほど相談を受けたり、サポートを受けたいという気持ちにはならないようである。

それに対して、女性では、「問題を感じているかどうか」に対して、「どちらともいえない」という回答であっても、相談やサポートの必要性に対して肯定的に回答する者も男性より多い傾向があった。なお、女性の場合、どんな点で問題を感じているか、という内容について検討すると、男性と同様に、無職で仕事を探しているあるいは非正規の仕事に就いているということもあるが、家族の問題、人間関係など男性よりも多岐にわたる課題が含まれている。男性は就職や労働条件に直結した問題に相談やサポートのニーズが絞られているところがあるが、女性の方は抱えている問題が多様であるので、男性に比べて求められている相談やサポートの範囲が広い可能性がある。それぞれが具体的にどのような相談やサポートを求めているか、という点については今回の分析では取り上げることができなかったが、本調査の Q29 から Q38 にかけて多くの項目が用意されているため、これらの項目を使って今後、分析することは可能であろう。

年齢や男女という要因を考えず、学校卒業後のキャリアという点からガイダンス・ニーズを検討してみると、結果から示唆されているのは、学校を卒業し、正社員で第一志望の会社に就職し、転職をせずに特定の分野で1つの仕事を継続し、現在も正社員・正職員あるいは自営等の仕事に就いていて、結婚して配偶者がいるという条件の人は、現在、職業やキャリアに問題を感じている程度も低いし、キャリアガイダンス・ニーズもそれほど感じていないということである。逆に言えば、この条件を満たしていない場合には、職業やキャリアに何らかの問題を感じたり、相談やサポートのニーズを抱えているということである。なお、キャリア形成のプロセスでは前の段階の経験や出来事が後続する出来事や状況に影響することがあるので、例えば、学校卒業後、正社員での就職ができなかったために、後に何回かの転職をし、現在も非正規の仕事に就かざるを得なくなったというケースがあるかもしれない。しかし、今回の分析では、個人の経歴を辿って、どのような経歴の個人が現在、キャリアガイダンス・ニーズをもっているのかという点までは扱うことができなかったため、個々の変数がキャリアガイダンス・ニーズにどう影響するかを調べるにとどまっている。

ただ、様々な要因の影響はあるとしても、現在、職業やキャリアに問題を感じていると回答した人や、相談や支援のニーズが高い人たちに共通する要因のうち影響力が高いものは、現在、仕事を探しているかどうか、という要因である。また、現在、非正規で働いていて雇用が不安定であったり、現在の労働条件に問題を感じている人もキャリアガイダンス・ニーズが高いことから、現在の就労状況の不安定さという要因がキャリアガイダンス・ニーズに

最も大きく関連していることが示唆されている。問題を感じている内容として「将来全般」という項目が男女、年齢階級を問わず最も多く選択されていたが、将来に向けた生活設計が多くの人の共通の関心事であるとする、現在無職であったり、就業状況が不安定であったりすることは、大きな懸念事項となる。この点からみると、キャリアガイダンスが将来に向けた生活設計や職業、キャリアに関する問題を扱う以上、いろいろな状況に置かれている人からの様々なニーズはあるとしても、求職者が希望の仕事に就業できるようにするための支援やサポートを提供する機能がキャリアガイダンスに求められている重要で中心的な課題であることは確かであろう。

参考文献

労働政策研究・研修機構 2010 成人キャリア発達に関する調査研究—50代就業者が振り返るキャリア形成— 労働政策研究報告書 No. 114.